

書籍紹介

鳥井裕美子 著

『前野良沢——生涯一日のごとく——』

鳥井裕美子 著，大分県立先哲資料館 編『前野良沢—オランダ人のばけものと呼ばれた男—（大分県先哲叢書〔普及版〕）』についての川蔦真人さんの書評が本誌第61巻第4号に掲載されており、『蘭化先生』への尊敬と愛情のあふれる著書について、評者の川蔦さんは、大変に丁寧な書籍の紹介と良沢研究の現在を書かれている。この〔普及版〕を手にしたくなられた方も多いと思います。残念であるがこの普及版は大分県教育委員会の出された非売品であり、一般の入手はなかなか容易でないと思います。紹介者は教育委員会より1冊を頂き、広瀬剛さんの挿絵とともに楽しく、共感しながら読まさせていただきました。この〔普及版〕を県下の生徒への配布のために出された大分県教育委員会の志は貴重なものだと考えました。

今回紹介する本書は鳥井裕美子さんの前野良沢研究の成果を一般書のかたちで出版されたものであり、この本は入手することが可能である。内容は〔普及版〕の表現よりも研究書としての重厚なものとなっている。特に良沢の著作の出版物が少ない中での研究で、蘭化先生の興味はオランダ語を通じての世界への興味、特にロシア研究に向かっていくことに深い考察がされている。「生涯一日のごとく」の副題があるが内容は下記のように多彩である。

第一章 徳川吉宗と青木昆陽

- 一 徳川吉宗とオランダ
- 二 青木昆陽のオランダ語学習

第二章 前野良沢—出生から長崎遊学まで—

- 一 前野良沢の出生と家系
- 二 中津藩江戸屋敷と「医師」の格
- 三 オランダ語との出会い
- 四 明和六年の長崎遊学
- 五 長崎遊学の成果

第三章 『解体新書』

- 一 杉田玄白と「ターヘル・アナトミア」
 - 二 翻訳開始とその方法
 - 三 良沢のオランダ語指導
 - 四 『解体新書』完成へ
 - 五 良沢にとっての『解体新書』
- 第四章 安永・天明時代の良沢
- 一 『解体新書』後の玄白と良沢
 - 二 安永時代の著訳書
 - 三 大槻玄沢との出会い
 - 四 天明時代の良沢の著訳書
- 第五章 ロシア研究の時代と良沢
- 一 ロシアの南下
 - 二 幕府の北方政策
 - 三 良沢のロシア研究
 - 「東砂葛記」「東察加志」—
 - 四 寛政初年の良沢
 - 五 「魯西亜本紀」と「魯西亜大統略記」
- 第六章 良沢の晩年
- 一 江馬蘭斎の入門
 - 二 芝蘭堂「新元会」と良沢
 - 三 晩年の日常生活
 - 四 奥平昌高と良沢
 - 五 天文方との交流
 - 六 良沢の死
- 第七章 没後の評価
- 一 江戸後期～幕末の評価
 - 二 明治期の顕彰活動と贈位
 - 三 蘭学（洋学）史の大綱
 - 四 良沢の肖像と遺墨について

鳥井さんの研究に敬意を表し紹介いたします。

(渡部 幹夫)

[思文閣出版，〒605-0089 京都市東山区元町355，TEL. 075(751)1781，2015年4月，A5判，307頁，2,500円+税]